

平成28年 1月 21日

事業経過報告書（英語教育改善プラン）

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県等教育委員会名	宮崎県教育委員会
所 在 地	宮崎市橘通東1丁目9番10号
代 表 者 職 氏 名	教育長 飛田 洋

平成27年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

契約締結日 ～ 平成28年3月31日

2. 研修協力校名

ふりがな 学校名	設置者	ふりがな 学校長名
みやざきけんりつみやざきこうぎょうこうとうがっこう 宮崎県立宮崎工業高等学校	宮崎県	たけした こういちろう 竹下 弘一郎
みやざきけんりつたかなべこうとうがっこう 宮崎県立高鍋高等学校	宮崎県	はやひと しろう 早日渡 志郎
みやざましりつあかえちゅうがっこう 宮崎市立赤江中学校	宮崎市	みずもと しげお 水元 重夫
しんとみちようりつにゅうたちゅうがっこう 新富町立新田中学校	新富町	せい ひろこ 清 宏子
しんとみちようりつにゅうたしょうがっこう 新富町立新田小学校	新富町	せい ひろこ 清 宏子

3. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

・域内の全中学校及び全高等学校について

① 求められる英語力を有する教師の割合

【中学校】

ア 現状 (英検準1級以上) 25.8%

イ 目標 H27: 40%、H28: 45%、H29: 50%

ウ 手立て 各試験団体が提供する特別受験制度の周知

域内研修受講者に対する教師の英語力を測るテストの受験推進

【高等学校】

ア 現状 (英検準1級以上) 75.5%

イ 目標 H27: 76%、H28: 78%、H29: 80%

ウ 手立て 各試験団体が提供する特別受験制度の周知

域内研修受講者に対する教師の英語力を測るテストの受験推進

② 求められる英語力を有する生徒の割合

【中学校】

ア 現状 (英検3級以上) 38.8%

イ 目標 H27: 40%、H28: 45%、H29: 50%

ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実

域内研修成果の普及

【高等学校】

ア 現状 (英検準2級以上) 32.0%

- イ 目標 H27:40%、H28:45%、H29:50%
 ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及

③ 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（（1）設定、
 （2）公表及び（3）達成状況の把握等の状況）

【中学校】

- ア 現状 (1) 22.2% (2) 0% (3) 6.7%
 イ 目標 H27: (1) 75% (2) 20% (3) 60%
 H28: (1) 100% (2) 40% (3) 80%
 H29: (1) 100% (2) 50% (3) 100%
 ウ 手立て 研修協力校研修 (CAN-DOリスト研修)

【高等学校】

- ア 現状 (1) 100% (2) 25.0% (3) 30.6%
 イ 目標 H27: (1) 100% (2) 40% (3) 60%
 H28: (1) 100% (2) 60% (3) 75%
 H29: (1) 100% (2) 80% (3) 90%
 ウ 手立て 研修協力校研修 (CAN-DOリスト研修)、県立学校教育課程研究協議会

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【中学校】

- ア 現状 48.2%
 イ 目標 H27:70%、H28:80%、H29:100%
 ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及

【高等学校】

- ア 現状 40.5%
 イ 目標 H27:60%、H28:65%、H29:70%
 ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するための
 スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【中学校】 【高等学校】

- ア 目標 指導と評価の一体化を目指したパフォーマンステストの導入推進
 イ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及、CAN-DOリスト研修

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

【中学校】

- ア 現状 51.6%
 イ 目標 H27:70%、H28:80%、H29:100%
 ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及

【高等学校】

- ア 現状 51.0%
 イ 目標 H27:80%、H28:90%、H29:100%
 ウ 手立て 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に係る研修の充実
 域内研修成果の普及

・域内の全小学校について、

⑦ 相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

【小学校】

- ア 現状 — 0.38%
- イ 目標 H28:5%、H29:10%
- ウ 手立て 外国語活動指導者研修会

⑧ 研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

【小学校】

- ア 研修実施回数・研修受講者数 3回・293名
- イ 目標 H27:6回・443名、H28:6回・443名、H29:6回・443名
- ウ 手立て 事業計画に基づく各種研修の実施

【中学校】

- ア 研修実施回数・研修受講者数 2回・30名
- イ 目標 H27:5回・105名、H28:5回・105名、H29:5回・105名
- ウ 手立て 事業計画に基づく各種研修の実施

【高等学校】

- ア 研修実施回数・研修受講者数 6回・127名
- イ 目標 H27:5回・122名、H28:8回・194名、H29:8回・194名
- ウ 手立て 事業計画に基づく各種研修の実施

○ 平成27年度の進捗状況・課題

① 求められる英語力を有する教師の割合

- ・中学校英語担当教員・高等学校英語担当教員共に目標を達成できていない状況である。
- ・全学校に特別受験制度の周知をし、域内研修（研修実習）受講者に対する教師の英語力を測るテストの受験を支援しており、今後割合が増えることを願いたい。しかしながら、部活動や学校行事等、校務の都合で受験したくても受験できない教師も多くいる現状もある。

② 求められる英語力を有する生徒の割合

- ・実用英語検定試験等を受検する生徒は比較的多いが、中学校も高等学校も、若干ではあるが、目標に届いていない状況である。
- ・基礎力の定着に課題がある生徒も少なくない状況であり、授業改善に係る研修の充実を図ったり、学校訪問等で指導助言を行ったりして、各学校の授業改善を促し、生徒の英語力向上につなげるよう働きかけている。

③ 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（（1）設定（2）公表及び（3）達成状況の把握等の状況）

- ・中学校については、全学校への完備に向け、計画的に研修等を実施している。
- ・高等学校については、活用に重きをおいて研修等を行っている。
- ・「CAN-DOリスト」の公表まで達成することが望ましいが、まずは、英語担当教員はもちろんのこと、学校全体で学習到達目標の達成を客観的に把握し、授業改善に取り組む必要がある。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

- ・目標に近づく形で、中学校も高等学校も、割合が上がっている。
- ・研修等を通しての、先生方の授業改善の意識付けの効果が出ている。
- ・言語活動を通して、基礎力をいかに定着させるかが今後の課題である。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピー

キングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

- ・中学校では、パフォーマンステストの導入が大幅に進んだ。高等学校では、さらに導入を促進する必要がある。
- ・授業における言語活動の導入が進む中で、評価方法としてのパフォーマンステストの導入が進まないの、授業と評価の一体化がなされていないことが課題である。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

- ・中学校は使用割合が上がっているが、高等学校は下がっている。
- ・域内研修（研修実習）を通して、英語担当教員一人一人の意識は高まってきている。
- ・高等学校や中学校3年生を受け持つ英語担当教員は、英語を使用する授業において、受験に対応する英語力をつけることに課題を感じており、別のものだと考えている教員が多くいる現状もある。

⑦ 小学校において、相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

- ・まだまだ低い状況であり、教科化に向け、意識改革が必要であり、特別受験制度を全学校に周知している。
- ・域内研修（研修実習）受講者へは特別受験制度を利用した支援を行っており、各種研修等において、英語力をつけるという意識付けを図っていききたい。

⑧ 研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

- ・今年度から小・中学校の域内研修もスタートし、高等学校も計画通り実施できている。
- ・研修について、受講した英語担当教諭からは、理論的にも実践的にも非常に有益であると、高い評価を受けており、各学校の授業にも生かされていると感じる。
- ・高等学校は、全員受講を考えると、年間総受講者数を増やす必要がある。

(3) 研修の体系と内容の具体

○ 研修の体系と内容の具体

- 外部専門機関：宮崎大学教育文化学部、宮崎国際大学国際教養学部、南九州短期大学国際教養学科との連携を通じた研修の充実

(1) 研修協力校（県立宮崎工業高等学校・宮崎市立赤江中学校、県立高鍋高等学校・新富町立新田中学校・新富町立新田小学校）研修

対象者：県立学校及び中学校教諭等

目的・内容：中学校、高等学校の授業公開、研究協議及び学習到達目標（CAN-DORIST）の作成と普及等に係る研修

受講予定者数：県立学校50名、中学校30名

教師の英語力を測るテストの実施：無

評価方法：参加者へのアンケートの実施及び関係成果指標の目標値達成状況による有効性の検証

外部専門機関との関わり：宮崎大学及び南九州短期大学の准教授等による指導助言

実施予定内容：授業公開・研究協議、研修テーマ（例）「学習到達目標の年間及び単元の指導計画への反映のあり方」「英語による授業のあり方」

(2) 小学校教員向け指導力向上研修

1) 外国語活動リーダー研修Ⅰ・Ⅱ

対象者：教育事務所から推薦された指導力の高い教員

目的・内容：外国語活動指導者研修の講師を養成

受講予定者数：20名

2) 外国語活動指導者研修

対象者：外国語活動の指導経験の少ない小学校教員

目的・内容：外国語活動指導者の指導力向上

受講予定者数：253名

教師の英語力を測るテストの実施：無

評価方法：参加者へのアンケートの実施及び関係成果指標の目標値達成状況による有効性の検証

外部専門機関との関わり：宮崎大学・宮崎国際大学の准教授等によるワークショップ及び指導助言

(3) 外国語指導助手の指導力等向上研修

対象者：JETプログラムにより招致しているALT

目的・内容：外国語指導助手の指導力等向上

基調講演、パネルディスカッション、ティームティーチング等に関する発表及び協議

受講予定者数：64名

評価方法：参加者へのアンケートの実施

外部専門機関との関わり：宮崎国際大学の准教授による基調講演等

(4) 中央研修受講者による域内研修の実施

中核教員数：小学校50名、中学校75名、県立学校24名

内容：2時間7セットの計3日間程度の研修

- ・ 中核教員に対して教師の英語力を測るテスト受験を義務づける。(小中高対象)
- ・ 第二言語習得に関する書籍利用による学習指導要領、各種タスクやアクティビティなどの指導方法の理論的背景の理解の促進を含む。(中高対象)
- ・ 研修内容を活かした授業実践報告会(ビデオ報告)を含む。(高校対象)

○平成27年度の進捗状況・課題

(1) 研修協力校研修

- ・ 1月19日と1月25日に実施予定。

(2) 小学校教員向け指導力向上研修

- ・ 域内研修として研修を行っている。

(3) 外国語指導助手の指導力等向上研修

- ・ 1月22日に実施予定。

(4) 中央研修受講者による域内研修の実施

- ・ 今年度から小・中学校の域内研修もスタートし、高等学校も計画通り実施できている。
- ・ 研修について、受講した英語教師からは、理論的にも実践的にも非常に有益であると、高い評価を受けている。
- ・ 高等学校は、全員受講を考えると、年間総受講者数を増やす必要がある。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	外国語活動リーダー研修会Ⅰ	宮崎大学 宮崎国際大学 南九州短期大学
7月	外国語活動リーダー研修会Ⅱ 域内研修（小）①②③	宮崎大学 宮崎国際大学
8月	外国語活動指導者研修会 域内研修（中）①②③	宮崎大学 宮崎国際大学
9月		
10月		
11月		
12月	域内研修：高①	
1月	域内研修：高② 外国語指導助手の指導力等向上研修 研修協力校研修①、②	宮崎大学 宮崎国際大学 南九州短期大学
2月	域内研修：高③	
3月		
【その他の取組】 宮崎県高等学校教育研究会英語部会が実施予定の「専門高校生の英語による学習成果発表会」（仮称）への支援		